

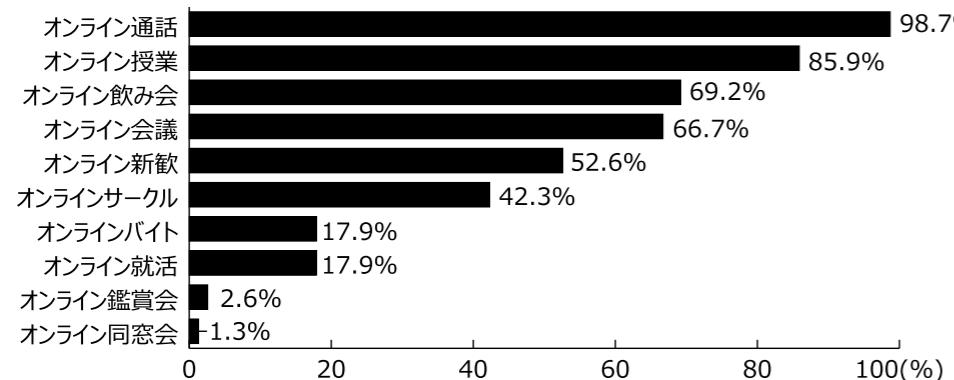
アンケート概要

オンラインは人々にどのように用いられ、また受け止められているのだろうか。そこでアンケートを実施し、Zoomなどを使用したリアルタイムの「オンライン〇〇」について回答やエピソードを募集した。

実施期間：5月31日～6月7日

回答人数：79人

◆ やったことがある「オンライン〇〇」はありますか？（複数回答可）



授業や会議などオフィシャルな場の代替手段としてオンラインを使用する人の割合が高かった。また、話題となつた「オンライン飲み会」を実際に行った人も多く、プライベートな人との交流の場としてもオンラインを活用する傾向がみられた。

◆ みんなのオンラインエピソード！～武勇伝から失敗談まで～

- ・授業中に家犬が入ってきてしました。
- ・授業に猫が参加。
- ・オンライン面接のときパソコン画面の前にカンペを置きすぎて、面接官の顔なんか全然見えてません。バレないからいいです。
- ・授業中ミートして全力で歌いました。
- ・画面に映った本棚に並ぶ表紙から成年漫画を買っていることがバレた。
- ・私の近隣住民のリコーダーの音が全員に聞こえていた。
- ・プライベートと授業で、名前を使ひかけるが、プライベートで使う名前を授業中に表示させていた。
- ・オンライン破局した。
- ・Zoomの使い方が分からなかつた教授が学生の参加を許可せず90分一人で話していたらしい。
- ・おもしろいことを言つつもりが、ラグが2秒くらいあり、ウケたかどうかわからない。

シラバス詳細照会

私たちは「これからを」どう生きるか

火曜6限「オンラインコミュニケーションの諸相」

講義要綱やWebシラバスの記載内容は、登録された受講生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更となる可能性があります。

シラバス更新履歴一覧

印刷

授業情報

開講年度	2020年度
科目名	オンラインコミュニケーションの諸相
担当教員	オムニバス
学期曜日時限	春学期 火 6時限
科目区分	講義
授業で使用する言語	日本語
大分野名称	情報学
中分野名称	総合
小分野名称	概論
レベル	初級レベル（入門・導入）
授業形態	講義
キャンパス	早稲田
科目クラスコード	00
オープン科目	

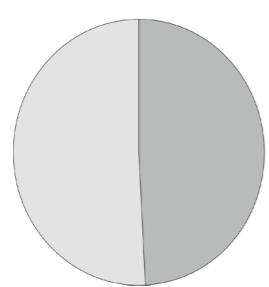
シラバス情報

副題	私たちは「これからを」どう生きるか
授業概要	新型コロナウィルスの流行は、ソーシャルディスタンスを私たちの新たな日常風景とした。そんななか、仕事や授業、友人ととのコミュニケーションなどさまざまな活動を持续するための手段として「オンライン」は注目を集めている。しかし「オンライン」は単なる代替手段にしかなり得ないのである。この「授業」では、新しい日常を支える存在としての「オンライン」の可能性を探っていく。
授業の到達目標	学生個々人がオンラインコミュニケーションへの学びを深め、自らの思考を働かせる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第34頁 イントロダクション 第35頁 オンラインに関するアンケートについて① 第36頁 オンラインに関するアンケートについて② 第37頁 オンラインに関するアンケートについて③ 第38頁 オンライン説書会開催までの変遷① 第39頁 オンライン説書会開催までの変遷② 第40頁 オンライン説書会について 第41頁 社会の中のオンライン
参考文献	教場で指示します。

シラバス更新履歴一覧

印刷

◆ オンラインによる変化はありましたか？



はい (50.6%)
いいえ (49.4%)

◆ どんな変化がありましたか？

- ・人との直接のコミュニケーションが減った。
- ・遠距離の人と繋がりやすくなった。
- ・今までよりも能動的に人と一緒に過ごす時間を求めるようになった。
- ・時間やお金にとらわれずに人と交流することができるようになった。
- ・目が悪くなり、体力も低下した。

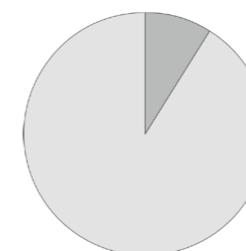
オンラインは、人との距離感を大きく変化させたようだ。これまでなかなか時間が合わなかった人、遠距離にいる人との交流の増加を実感した方も多いだろう。一方で、キャンパスでの友人との再会や授業での新たな出会いなどが生じ得ないこの現状は、人との関わりが無意識的には成立しなくなっているといえる。主体性を持って誰かと繋がろうとしなければコミュニケーションをとる相手が限定されていく、それがオンラインなのである。

◆ アンケート全体への考察

対面での活動をオンラインで同じように成し遂げたときに「すごい、珍しい」と感じる人が多い印象であった。これはオンラインを対面の質の劣った代替手段として捉えているからだろう。一方で現在、コロナ禍では、オンラインで人とのコミュニケーションをとることへの期待もある。よって私たちは「アフターコロナ」の時代にも生きる、オンラインを活用した人との繋がり方を模索すべきではないだろうか。そこで、この企画では次ページ以降、オンラインで人との繋がりを築くことを目的とした企画員からのアクションについて紹介していく。



◆ オンラインならではの良かったことはありますか？



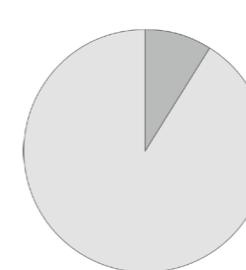
はい (93.7%)
いいえ (6.3%)

◆ みんなが思う、オンラインで良かったこと

- ・オンライン授業でチャットを使った発言もしやすい。
- ・移動時間がなくて楽!!
- ・終電を気にせず飲める。
- ・化粧など世間体を気にしなくてすむ。
- ・遠方にいる人とも気軽に集まって話すことができる。
- ・交通費がかからない。

9割以上がオンラインならではのメリットを実感しているという結果となった。具体的には、距離に縛られない気軽さにその実感を抱く人が多かった。また、チャット機能の存在が発言を容易にするという効果もあるようだ。したがって、距離や時間、世間体という制約から解放される場としてオンラインの利点が見出せる。

◆ オンラインで困ったことはありますか？



はい (93.7%)
いいえ (6.3%)

◆ みんなが思う、オンラインで困ったこと

- ・2人同時に喋り出したときの気まずさ。
- ・時々Wi-Fi接続が悪く内容が聞き取れない。
- ・どうしても回線や技術の問題で現実で会うほどスムーズ(こ)ないこともあります、話が深まりづらい(深まらないわけではありません)。
- ・回線が悪くて止まる。
- ・空間を共有していないため相手の反応や状態があからざるコミュニケーションが難しい(会話の終わり方など)。
- ・ラグがあるので大人気でのおしゃべりは難しい、ツッコミのタイミング難しい。

特に目立つのは通信障害やコミュニケーションの難しさである。前者はWi-Fiなどの通信インフラが原因であるため、オンラインを利用するほとんどすべての人が経験したに違いない。また後者は、いかに場の空気を読めるかという点に左右されるため個人差が生じやすい問題だと思われる。オンラインコミュニケーションの性質を踏まえた経験と勘を培うことが求められている。

02

Twitter の活用

● 背景

オンライン上で人の繋がりを手軽に得られる場の一つに挙げられるのは Twitter だろう。そこで、読書会開催にあたり「読書会公式 Twitter アカウント」を作成し、読書会参加者の募集を行った。

● 活用の流れ

Step.1

まず読書会用の Twitter アカウントを作成した。また、作成後すぐに「読書会へ行こう！ 読書会情報サービス」というアカウントにフォローされた。Twitter 上には読書会に参加したい人を繋げるプラットフォームが既に存在するのだろう。

Step.2

読書会に人を引き込むためには、初めにアカウント同士が繋がる必要性を感じ、フォロワーを増やすことに努めた。具体的には、読書会に関するアカウントのフォロワーを辿ったり、ハッシュタグから読書会に興味関心がありそうなアカウントを大量フォローした。1日のフォロー可能数には上限があったが、順調にフォローを返してもらい、作成後3日でフォロワー200人を達成した。Twitter では興味関心という共通項で手軽に繋がれるのだ。

Step.3

フォロワーを増やしつつ、読書会の宣伝に努めた。この際、「公式感」を出すことに留意した。単に文字だけの宣伝ツイートをするのではなく、あえて広告写真を作成して画像のツイートも行った。実際、広告写真的いいね数は文字だけの場合よりも多かった。

03

開催までの振り返り

初期段階では、LINE のオープンチャットで新たな繋がりを築くことに困難を感じた。そこで、Twitter アカウント上に LINE のオープンチャットの URL を記載し、読書会の参加希望者をオープンチャットに誘導した。比較的オープンな場である Twitter は繋がりやすい反面、不要な情報も飛び交いやすい。だからこそ、閉鎖性の高いオープンチャットに誘導することで、読書会の詳細情報を発信しやすくすることを目的としたのだ。実際、オープンチャットは読書会に関する参加希望者からの質問や感想が活発に飛び交う場となった。よって同じオンラインの媒体ではあっても、媒体ごとに性質を考慮して使い分ける必要があると言えるだろう。



Twitter プロフィール画面



作成した広告写真

オンライン読書会、開催してみた。

00

開催理由

リアルでは空間を共有して意図せずに人と繋がれるが、オンラインでは繋がろうとしなければ繋がれないことをコロナ禍で実感した人も多いだろう。しかし同時に、オンラインには繋がろうとすれば手軽に繋がれる良さもある。

そこでこの企画では、「好きなファンタジー小説」という繋がりを設定した「読書会」を開催することで、オンラインならではの良さを生かしたい。以下はその検証までの過程と結果、分析である。

01

LINE オープンチャットの活用

● オープンチャットとは

オープンチャットとは、LINE のトーク機能をベースにしたチャット機能である。従来のトークとの違いとして、共通の趣味や関心を持つユーザーと、匿名で繋がったトーカルームを作ることが可能である。

● 活用してみて

新規にチャットを作る場合、まず人を引き入れる必要性があり、短期間で読書会の開催を目指した今回は別途 Twitter アカウントを制作して人を集めることに成功した。既存のチャットに参加する場合、関係性はすでに出来上がっているので後出しではなかなか会話を切り出しにくい面もあった。魅力的なグループを見つけても休眠状態のものとそうでないものとの見分けがつきにくく、オンラインでの関係性の構築の難しさを伺わせた。オープンチャットでの関係は内部で完結しているよう、外部での繋がりはあまり求められない感じた。

最後に社会の中の「オンライン○○」を、企画員の興味に基づいてピックアップした。社会の中でオンラインがどのようなものであるのかを考察するためのきっかけにしてもらいたい。

オンライン授業

オンライン授業が全面的に導入される前は、対面の授業よりも互いの意思の疎通がとれず、一方通行のコミュニケーションをもたらすと考えられていた。しかし実際に行われてみると、これまで最後にレポートを提出するだけだった授業で課題が増えたことが、学生側の考え方や意見を教員に伝える機会をより多くもたらしたのではないだろうか。また以前なら提出したらそのままあった各種課題にフィードバックがなされるなど、かえって互いが身近になったと言えるだろう。一方で、授業前後の他の学生や教員とのコミュニケーションが絶たれてしまい、学習を深める機会や人間的な成長を得難い状況も出来上がってしまっている。

オンラインインターン



2020年のインターンシップはオンラインが主流となった。ではオンライン形式のインターンシップにはどのような特徴があるのだろうか。最大のメリットはやはり、居住したことが挙げられる。都市部出身者は地方に、地方出身者は都市部に目が向くのは企業にとっても学生にとっても良いことだ。デメリットは、個人的な意見だが、緊張感がないことだ。何となく身が入らない。自宅にいることは変わりないし、Zoomでは参加者と目を見て話すのが難しい。そのような事情を考慮して期間を短くして実施する企業も多い。

社会と オンライン

オンライン旅行



コロナ禍の現在、旅行に行きたい人と現地にいる人をビデオ通話で繋ぎ、自宅で観光から買い物まで出来やワインなどをテーマとした地域を超えたオンラインの旅行ツアーや、観光客同士がオンライン上で交流するツアーも存在するようだ。もちろん、「オンライン旅行」は直接の旅に向けて思いをはせる前向きなきっかけとして、「オンライン旅行」は新たな価値を提供してくれるのかもしれない。

オンラインオフ会

2019年まで、ビデオ通話は離れていて会えない人と顔を合わせるための補完手段だっただろう。しかしコロナ禍が会える距離にいる人とも直接会えない状況を生み出し、オンラインは不可欠な代替手段にもなった。この状況下で「オンラインオフ会」が増えている印象がある。考えてみれば、カメラオフの機能や名前の変更はネット上で知り合った人と直接会う怖さを軽減させ、またどこにいても参加できることはオフ会の手軽さに繋がる。「オンライン」と「オフ会」は一見矛盾しているように思えるが、実際にはオンラインの長所をうまく活用出来る例なのかもしれない。

04

読書会当日!

● 概要

読書会参加者の5人中4人が留学生であった。片言ながら一生懸命話してくれる様子から、好きな小説への熱い思いが伝わってきた。また参加者全員が読書会の未経験者であり、手探りで協力しながら進行した。

● 内容

ファンタジー作品の紹介が読書会のテーマであったが、次第に紹介される作品がディストピア作品の傾向を強めていき、それにつれて会話も活性化していった。例として『鹿の王』、『百年法』、『歌うクジラ』などの作品が挙がった。参加者は読書会経験がないながらも本に関する知識が豊富であり、お互いの興味関心に資するような本を紹介し合うことが出来た。

また開催後もオープンチャット上で読書会の感想を共有する動きが見られた。「次は本のテーマ、モチーフについて突っ込んだ議論をしてみたい」という読書会の再開催の要望も届いた。

05

参加者の声

Aさん 10:00
顔出しや外出をしなくてもよいため、気軽に参加出来ました。読書会は議論する場かと思っていましたが、しゃべったり聞いたりするだけでも楽しく、充実感がありました。

Bさん 10:00
周りに読書が好きな人がいないので、この読書会をきっかけに本好きな人と繋がっていけたらと思います。

Cさん 10:00
たくさんの本を知ることができ嬉しいです。いつでもどこでも人が繋がられるオンラインの便利さを感じました。

06

開催してみて

このオンライン読書会開催を通して、オンラインで知らない人同士が繋がる可能性を示せたのではないか。外出、顔出しという手間やハードルがないことが、新たな繋がりをオンライン上で築きやすくしている。一方で、参加者からは再開催を望む声がありつつも、最後まで話題が読書会のテーマという枠を越えないことも印象的であった。オンラインでは興味関心という共通項から繋がりを築きやすいが、そこから個人的な繋がりに発展させることは難しいようだ。